

令和4年度認定こども園リーチェル幼稚園における学校関係者評価および自己評価の結果報告

自己評価アンケート集計日 令和5年3月 16日
 学校関係者評価委員会評価実施日 令和5年3月 22日

1. 園の教育目標

心身ともにたくましい子になろう

2. 認定こども園リーチェル幼稚園の具体的な保育指針

自分で出来ることは自分でやる気概を育てる
 知性・思考力と好奇心、創造性の伸長
 身近な動植物を愛し、自然や社会の事象に興味・関心をもつ
 体力の向上をはかる
 10の約束（幼児期に身につけたいモラル）を実践する

3. 学校評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	反省と改善点	評価	意見
1	保育の計画性	B	教員を多く確保することで、長時間保育の対応職員と教材研究・保育研究等に対応する職員に分割することができ、次の保育の充実につながった。コロナの影響を受けつつも、コロナを踏まえた保育計画を立て、創意工夫を重ねながら保育実践をおこなうことができた。	A	今年度もコロナの影響を受けたが、この一年間コロナ禍においても子供たちへ例年と変わらず保育実践することができた。コロナ制限がなくなる次年度は、さらに創意工夫を施し、よりよい教育保育の提供を求める。
2	保育の在り方 園児への対応	A	子供の豊かな育ちを第一に考え、感染症対策を講じながらも、積極的に教育保育活動を工夫し、おこなうことができた。また、園児数に対する職員数を増やし、きめ細かいサポートができるよう体制づくりに努めた。	A	県内でも不適切保育の事例があげられたが、園児一人ひとりを尊重し、個々に合わせたきめ細かな対応ができるよう保育の質をこれからも高めていってほしい。これからも子供が安心安全な環境で教育保育ができるよう努めていってほしい。
3	教師としての 資質・能力 良識・適性	A	園内研修として、全職員対象にメンタリングマネジメントを中心とした研修を隔月に実施している。研修を通し職員同士の同僚性を高めることができた。キャリアアップ研修についてもリモート研修等をうまく使い効率よく受講することができた。	A	園内研修により職員全体の資質向上にも努め、質の高い教育組織を築いていると感じる。また、協会や外部の研修にも積極的に受講し、教師の資質向上に努めている。
4	保護者への対応	B	コロナの影響で、園内に保護者が出入りする機会が減少し、園と保護者の距離が物理的にも精神的にも離れてしまう状況がつづいたので、すこしでもそれらを解消しようと、園での様子を写真や動画で配信するなどの工夫をおこなった。次年度、コロナ制限がなくなるので、園と保護者の連携をより工夫して展開していきたい。	B	保護者の来園機会がコロナにより減少し、園とのコミュニケーションの機会が減ってしまったが、園での様子を伝える工夫をおこなったり、参観や保育参加の機会を創ったり、子供たちの様子をみる機会を増やしてくれた。これからも園とのつながりが創出できることをより工夫していけるとよい。
5	研修と研究	B	昨年に引き続き、運動と音楽や生活習慣と音楽の融合など保育と音楽について調査研究し、保育における音楽の影響を研究した。	A	教育内容がより充実したものとなるよう教育研究に努めていって欲しい

*結果の表示方法

十分達成されている
 達成されている
 取り組まれているが、成果が十分でない
 取り組みが不十分である

A
 B
 C
 D

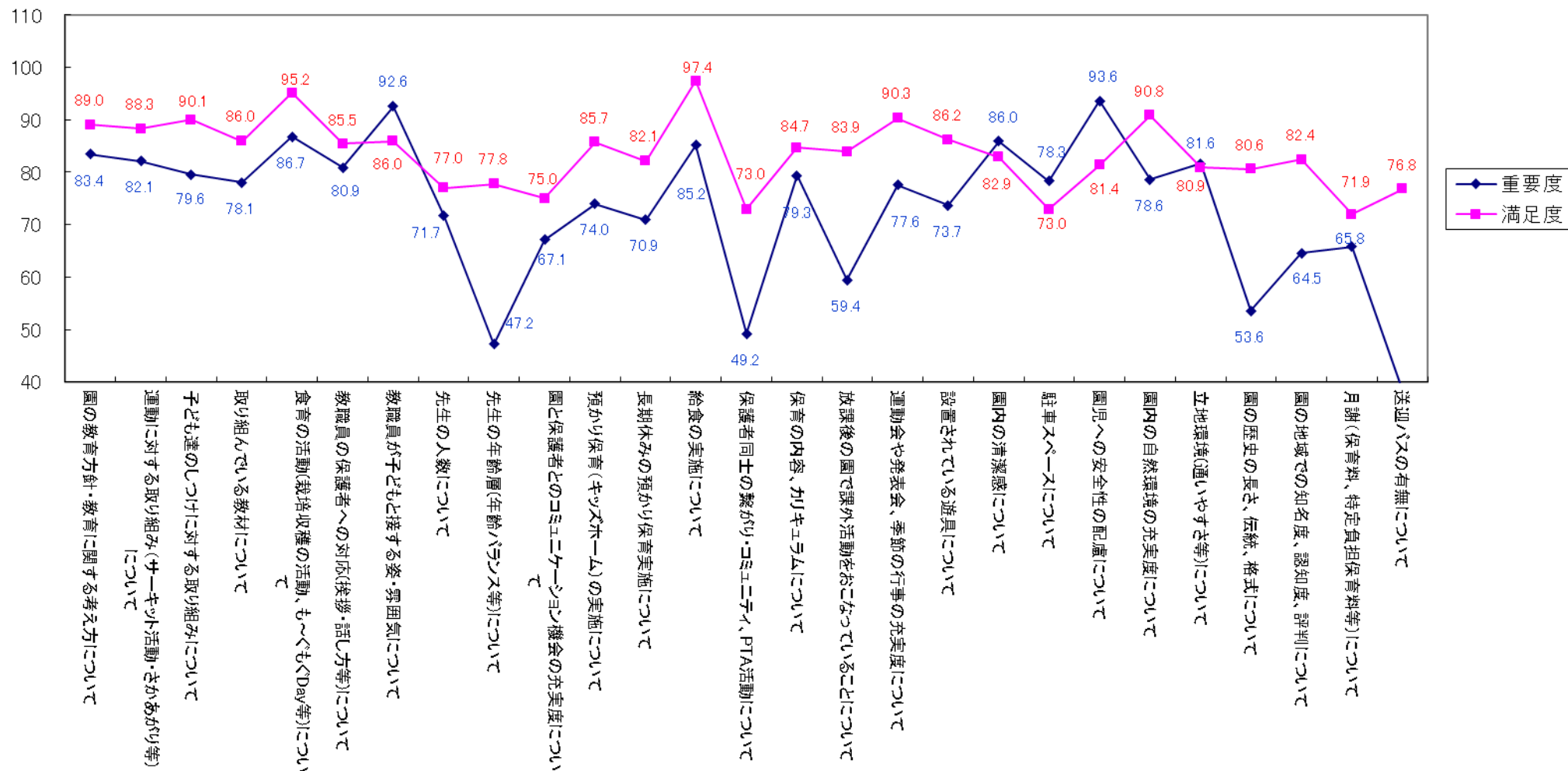
4. アンケートによる自己評価（教職員）および保護者による学校評価の結果

	項目	質問内容	自己評価		学校評価	
1	理念・教育方針	園の教育に関する考え方	80.4	75.9	89.0	89.7
		運動に対する取り組み	73.2		88.3	
		子ども達のしつけに対する取り組み	77.7		90.1	
		取り組んでいる教材について	66.1		86.0	
		食育の活動（栽培収穫の活動、も〜ぐもぐDay等）について	82.1		95.2	
2	教職員の取り組み	教職員の保護者への対応(挨拶・話し方等)について	77.7	68.6	85.5	80.3
		教職員が子どもと接する姿・雰囲気について	69.6		86.0	
		先生の人数について	63.4		77.0	
		教職員の年齢層(年齢のバランス等)について	67.9		77.8	
		園と保護者とのコミュニケーション機会の充実度について	64.3		75.0	
3	教育・保育に関するサービス	預かり保育の実施について	75.0	72.3	85.7	85.3
		長期休みの預かり保育実施について	73.2		82.1	
		給食の実施について	85.7		97.5	
		保護者同士の繋がり・コミュニティ・PTA活動について	70.5		73.0	
		保育の内容、カリキュラムについて	65.2		85.0	
		放課後の園で課外活動をおこなっていることについて	67.0		83.9	
		運動会や発表会、季節の行事の充実度について	69.4		90.3	
4	施設・設備・環境	設置されている遊具について	78.6	74.7	86.2	82.5
		園内の清潔感について	72.3		82.9	
		駐車スペースについて	74.1		73.0	
		園児への安全性の配慮について	67.9		81.4	
		園内の自然環境の充実について	82.1		90.8	
		立地環境(通いやすさ等)について	73.2		80.9	
5	その他	園の歴史の長さ、伝統、格式について	74.1	70.3	80.6	77.9
		地域での知名度、認知度、評判について	69.6		82.4	
		月謝（保育料、特定負担保育料等）について	64.3		61.9	
		送迎バスの有無について	73.2		76.8	

5. 保護者アンケートによる重要度と満足度の調査結果

※重要度とは幼稚園選びの際にどの項目を重視しているのかを示し、満足度とはリーチェル幼稚園の取り組みに対する各項目の印象(満足度)を示しています

保護者の満足度調査



6. 学校関係者評価委員会による総評

昨年に引き続き、園の理念・教育方針に対する保護者の理解も高く、運動やしつけ、カリキュラムなど園の取組みに高く評価をいただき、特に食育については給食の実施を含め高い評価委をいただけている。コロナによる休園も1学期はあったが、感染症対策に留意し、対策を施しつつも、子どものすこやかな育ちや成長、発達のための教育保育活動を1年を通して行なえた証だと思う。 次年度はコロナが明け状況が良い方向へ変化するであろうが、こども園としてより満足いただけるようさらに教育保育の内容を充実させ、また保護者とのコミュニケーションの機会も工夫し充実させ、できること積極的に挑戦していつてもらいたい。 学校関係者評価委員会としての評価は A とする。	総評
	A

7. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上、子供や保護者への対応の充実	教職員の資質向上については、職員全体研修を引続きおこない、園内研修や外部研修を活用し、教職員一人ひとりの資質向上をはかり、園全体の教育保育の資質向上により一層努めていく。また園内研修においては、あらたにカリキュラムマネジメント研修を取り入れ、保育の質の向上に努める。 園と保護者との関わりやコミュニケーション機会についても、コロナ制限がなくなる次年度より、より充実したものとなるよう工夫改善をしていく。
園児への安全性の強化	県内において重大事故や不適切保育の事案があり、園としても身を引き締め、当園ではそのようなことが起きないように、起こさないよう、再度マニュアルの見直し強化や、県からの新たな通知を遵守し、徹底する。また、事故防止委員会を中心に、事故防止や、不審者対応、自然災害、園内感染、アレルギー対応などのマニュアルを再確認し、非常事態に落ち着いて対応できるよう定期的に研修を重ねる。また、園内のケガについても同委員会にて防止策を検討し再発防止につなげる。
駐車場、園への通園の問題	保護者への交通マナーの徹底をおこなう。 近隣の方々に迷惑がかからないよう登園・降園時のルールをわかりやすく見直し、徹底する。
施設・園庭等園内環境の整備・美化	園内の整理・整頓・清潔を常に意識し行動する。衛生面においても園内を清潔に保つことがとても重要である。 園内だけでなく、園庭環境においても自然を活かし、共生できる工夫をしながら、安全対策や事故防止対策も講じ、子供達が安心して、そして意欲的に遊び込める園庭環境の整備に努めていく。